

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393100088		
法人名	球磨地域農業協同組合		
事業所名	JAくま 福祉の里 グループホーム 木綿葉		
所在地	熊本県球磨郡あさぎり町須恵寛井828番地		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成26年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春には桜に囲まれ秋にはホールから大きなイチョウの紅葉を見ることが出来、季節の移り変わりを肌で感じる事が出来る環境である。地域との交流で「落語会」「交通教室」「木綿葉の集い」等計画しており地域の方々に喜んで頂いている。施設周辺の散歩やお彼岸の「観音様お参りの接待」などで顔見知りの方が声を掛けて来られ地域に見守られた施設となってきている。毎日の生活に変化を取り入れる為に季節に応じたバスハイイクや外食、ショッピング、JAイベントや入居者の希望に応じてお墓参り等外出の機会を多く設けている。グループホームに併設して介護予防事業「サロンDO須恵」があり、入居者はリハビリに出向いている。隣接して有料老人ホーム、デイサービスがありお互いに交流を図っている。職員は家庭的な雰囲気作りにも努めており、家事作業にそれぞれ出番作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉センターの跡地を利用した福祉の里の一つとして平成24年に開設されたホームでは、普通の生活の延長線として捉えた地域とつながりながらの暮らしである「朝天神に夕稲荷」として毎日の参拝や地域の社会資源(多岐にわたった外出、住民との交流)の活用とともに隣接する法人のバックアップ及び職員の機動力の発揮は、入居者からは「なつかしかあー」、家族からは「家ではできないこと」と感謝の言葉となって表れている。職員は一人ひとりの心身の状況や特性の把握に努め、主体性を尊重した本人本位の生活や眼下の住み慣れた我が家が今まで生きてきた証として自信を持ち続けた方等これまでの関係性、暮らしの現状の把握をプランに反映させ実践している。運営推進会議では道路舗装等ハードでの整備に繋がるばかりか地域高齢者問題等行政との話し合いの場としても生かされる等この会議の相乗効果が表れている。入居者9名と馴染みの職員とが大家族としての和やかな生活と労いながらの温かいホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールの壁に貼り職員、利用者、訪問者の目に届き常に意識付けが出来るようにしている。又、運営推進会議の資料や家族様に送る広報に記入し理念を共有出来るようにしている。	開設時に全員で作成した理念“信頼・尊重・共生”を具現化し、掲示により意識付けとし、“木綿葉便り”や運営推進会議資料に入れ啓発に努めている。入居者個々の出来る力を生かした穏やかな生活や住み慣れた地域に繋がりがながらの生活の継続に理念が浸透していることが表出し、家庭的なホームが形成されている。	今年度は理念の啓発に真摯に取り組まれたことが確認された。理念に基づき、具体的な目標を設定することや振り返りの機会等を検討され、一層の理念の浸透に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント見学や観音様参りでの接待を受けたり木綿葉の集いと称して地域の方達を招いて落語会、交通教室等で交流の機会を作っている。又、日常的に施設周辺の散歩を行っており近隣の方との交流を持っている。	普通の生活の延長線上として捉え、地域とつながりながらの生活を支援するホームである。毎朝の散歩がてらの天神様参詣や様々な地域の行事及び地区の敬老会の案内を受け参加している。隣接のデイサービス利用者との交流や園児や小中学生等との交流もあり、散歩等日常的な交流が認知症啓発の一環として生かされている。	坂の上という立地的な条件により、近隣住民特に高齢者が頻繁に訪問する環境にはないが、“木綿葉の集い”では多くの住民参加により盛会に開催されたことが確認された。今後も継続した取り組みにより、双方向からの親密な関係が更に深まることが大いに期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の要望により認知症啓発に出かけている。高校生や中学生の研修受け入れを行い認知症の方とのふれ合いにより理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の報告、受診状態、困難事例の相談や事故報告に加え行事のお知らせ避難訓練についての相談等行いサービス向上に繋げている。	充実したメンバー構成のもと、入居者も輪番で出席する運営推進会議は入居状況や日常生活、受診・事故等詳細に報告し、質疑応答が行われている。地域委員や行政との話し合いによる下水道工事や道路改修等具体的な改善策が講じられ、入居者の意見もケアサービスに繋がる等有意義な会議となっている。昨年度の外部評価結果を踏まえた意見交換や25年度のスタート時に理念と共にこの会議の目的と内容について説明し、広報誌により家族の参加を依頼している。また、雑談の中でも地域高齢者問題等委員と行政との話し合いの機会としても生かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ出席していただきサービス内容の把握や困難事例の相談行政に関する相談等協力関係は築けている。	行政担当者との協力関係が築かれていることは運営推進会議への毎回の参加に表れ、困難事例や疑問点等は電話等により相談している。また、管理者は助成金等月に数回は行政に顔をだし情報交換を行っている。地域包括支援センターから入居相談や申し込み等もあり、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止で周知徹底している。玄関の施錠は日中は開放し徘徊時は職員が同行している。身体拘束についての勉強会も行っている。	福祉アドバイザーによる研修やホーム会議により周知徹底を図り、無意識なケアや力による介護をしていないか等職員個々のケアの振り返りの機会として理解を深めている。入居者一人ひとりの外出傾向や帰宅願望を把握し一緒に地域を歩いたり、徘徊の事例により入居者への声かけを統一し、見守り及び所在確認の徹底に努め、生活の場として安心した環境が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は原則禁止だが虐待にどんな事柄が含まれるのか勉強会をおこなっており些細な事柄を見過ごさないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加しているがまだ制度を必要とする利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約、又改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書、契約書について契約者に見て頂きながら読み上げその時点で疑問点について説明を行い理解や不安の解消に努めている。。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の出席により意見を聞く機会を設けている。又、面会時や電話などいつでも意見や要望を聞けるようにしている。	玄関先の意見箱の他、家族にも訪問時や電話等により意見や要望を聞き取りしており、ケア中心の要望が出されている。また、広報誌とともに担当職員により月間の近況報告や遠方の家族には電話連絡による報告時に意見等を収集しケアサービスに反映させている。入居者の運営推進会議での発言、「一緒だから日々が楽しい。墓参りがしたい。」という声を受け墓参を支援する等運営推進会議も問題提起の場として生かされている。契約時にホームに言い出しにくいことがあれば、役場等に申し出られることを説明している。	家族に行事への参加を促し、家族との交流会の場を検討いただきたい。家族の悩み等を発信する機会として、また家族同士の話し合の場として生かされることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会上司に出席して貰い利用者に関することや職員の状況の問題点をだしお互いの意見を交換しており働きやすい環境を整えている。	法人上席参加される毎月のホーム会議は情報交換の場として全職員が参加し、業務見直しや夕食配膳時間の調整、記録方法等検討し確立させている。また管理者は業務の中で個別に話し合ったり、指導する等コミュニケーションを図り、法人の部長による個人面談等意見や提案が出し易い環境が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意欲を高めることが出来るよう労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の会議に勉強会及び研修を取り込み職員の資質向上につなげている。又、外部研修にも積極的に参加を勧め資格取得に意欲的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会との交流や職員間の交流を持ち相談など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の情報、家族からの聞き取りや本人との会話の中から要望や不安を汲み取り安心して生活出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いを持ち本人の事はもとより家族が困っていることや要望など相談があれば聞き信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を行い場合によっては関係機関への相談をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出番を作り家事作業などの手伝いを多くとりいれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に本人にとって何が一番良いのかを家族と相談したり受診付き添いや外出など協力をお願いしている。職員から月1回の写真入りの状況報告を発信している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所の散歩や地域の人との交流、墓参り、買い物等支援に努めている。	元温泉センターの跡地という馴染みの場にあるホームは、入居者同士が幼いころからの知り合いという方も多く、天気の良い日には毎日天神さんや稲荷神社への参拝や観音様参りでは知り合いの住民よりお接待を受けたり、墓参りや葬儀参列等馴染みの関係性を継続している。また、彼岸のおはぎ・ぼた餅、お盆団子等慣習や手芸等趣味等も支援し、入居者と職員との関係も馴染みの関係である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格、認知度から来るトラブル回避や孤立を防ぐ為にテーブルの位置を考慮したり、ソファやカウンターの利用をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後に様子を見に行くなど関係を断ち切らないようにし相談があれば支援していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前にも聞き取りするが日々の生活の中での会話や行動から把握するようにしており本人本位を大事にしている。	アセスメントで得た情報の他、自己主張もされる入居者も多く、日常の会話での聞き取りや受診時や入浴等1対1の場面で良く会話を交わし、意向を把握したり、行動の裏にある真意を探り本人本位になるよう支援している。自宅では「受診の時は外で食事をしていだから食べて帰ろう」という希望を実現したり、柵をたたく行為の意味を考察している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や本人、家族からの聞き取りを行いすべての職員が把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の情報交換、日常生活の記録、行動、思いの把握に努め本人の力に応じた出番作りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状を把握し職員間で月1回のケアカンファレンスを持ち家族面会時に話し合い介護計画を見直ししている。	毎月のケアカンファレンスでは担当職員を中心に気づきや観察結果等を話し合い、定期的な3ヶ月毎の見直し、個々の状態変化に応じ随時のカンファレンスを行い、介護認定更新時には再アセスメントを行っている。家族も交えた話し合い、満足度の聞き取りや目標達成度を見極め、現状に即したプランが作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録、ミーティング、毎月の会議を通し情報共有し又、個別に職員担当別記録を記入し介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設事業所の利用や交流、リハビリ等取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の敬老会出席や消防署や地域消防団の協力の元火災避難訓練を実施、又、地域の交流を含め警察署よりの交通教室を開催している。又、JA展示会見学など実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅からの掛かり付け医を支援している。医療機関変更が必要時は家族と相談しながら勧め受診付添いもお願いしている。	入居前からの主治医を継続し、かかりつけ医のない方に対しては協力医の説明をしている。受診は家族での対応を基本として、一人暮らし等の状況に応じ支援している。受診時には主治医からの指示を受け血圧手帳等を持参し情報を提供し、併設施設の看護職員と相談したり連携を図り、異常の早期発見や早目の受診に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う状態に気づいたらすぐに看護師に報告を行い指示を仰いでいる。受診が必要であれば家族連絡のちすぐに手配している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員の面会などで本人の安心はもとより病院スタッフとの連携、情報交換を行い早期退院に向けて努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で重度化されたときの話し合いはしている。ホームで対応出来ることと方針について説明し必要時に家族に再確認している。	重度化時にホームで出来る対応について方針を定め、医療中心になると難しい事を説明している。介護度によっては特養の申し込み等もあり、医療機関等との連携を図った終末期の対応としホームです出来る限りの支援に取り組んでいる。又、急変時の医療措置等について家族との意思確認を交わしている。	入居者の年齢的、介護度的な側面から、介護・看護両面からの研修等により、来るべき時に備えられることが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にAEDの操作方法の訓練がありホールに備えてある。急変のマニュアルが見やすいところに置いてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団及び消防署の協力を得て防火避難訓練を年2回利用者を含め実施している。	消防署や地元消防団の参加による併施設と合同の火災避難訓練を年2回開催している。日頃から火気点検や避難シュミレーションを行い、火を出さない事や有事への意識付けとしている。地区の防災訓練への参加や防災組織の一員として参画している。	自然災害時の地域の避難場所として協力していく事を運営推進会議で説明しており、備品や備蓄等を法人一体となって検討されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に取り入れ常に意識付けを行い言葉掛け等に配慮している。	接遇研修を実施し、一人ひとりに合わせた声かけについて職員間で統一を図り、家庭的で親しみを込めた話しかけの中にも入居者を尊重した言葉遣いに努めている。又、トイレ誘導時はプライバシーに配慮し扉を閉めて対応し使用中の札を掛けている。個人情報保護方針を遵守し写真使用を含めた使用の同意や、職員の守秘義務の徹底を図り情報の漏えい防止に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の思いや希望を汲み取り実現できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大事にし利用者にあった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る利用者は入浴時の着替えの準備をして頂いたり希望があれば染髪を行っている。散髪はボランティアに来てもらっているが本人が希望されたら散髪に出向いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が一人づつ付き会話を提供したり摂取状況を見守りしながら食事している。食材の下拵えやテーブル拭きなど各自の能力に応じた事をしていただいている。	入居者は食材買い出しや下ごしらえ等に関わり、おはぎや干し柿づくり・お好み焼き等を一緒に楽しんでいる。職員も各テーブルに着き持参した弁当を広げ楽しい会話のある和やかな食事である。入居者に合わせおにぎりや刻み・とろみ食などで提供し、差し入れの野菜が利用されたり、週に何度かは業者の食事を取り入れている。又、ドライブや紅葉見物を兼ねた外食では入居者の笑顔が写し出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の給食業者と手作りメニューを併用している。手作りメニューは献立内容を職員が栄養バランスを考えて作っている。水分確保に各自水筒を持っていたり料理形態は各自に応じて作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせた口腔ケアを行っている。洗浄が不十分な場合は職員が手伝っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し個々にパターンを把握し本人に応じた介助をしている。	排泄チェックを実施し、一人ひとりの排泄状況により見守りや声かけ等昼間は全員をトイレに誘導している。又、汚染行為改善に向けプランと一体化することで改善が図られ、安眠の為の排泄用品の検討や、夜間時はポータブルの使用により安全な排泄を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を多く取り入れたり野菜類を増やした献立を立てている。水分を取れるように各自水筒を持って頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に隔日だが本人の意向でどうしても入られないときは翌日に入浴してもらう等柔軟な対応をしている。	毎日準備し、入居者の希望に応じ毎日の入浴や拒否がある場合は声かけを工夫し、音楽や職員との会話を楽しみながら寛いだ入浴を支援している。時には二人介助や室温に配慮したシャワー浴、入浴剤の使用や、ゆず・しょうぶ湯等を取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分が休みたい時に休まれたりと自由であるが安全面を考えて目配りが必要な利用者の居室の配置など考慮している。空調管理にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日常生活記録の中にいつでも処方箋が見られるように綴じてあり受診時に変更があれば連絡ノート及びケース記録に記入し職員皆で共有しその後の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を生かした物作りやお菓子作り、季節の行事での楽しみやバスハイク等実施している。外食も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に買い物に出たり近隣の散歩等や地域の催しなどに出かけている。	玄関先での外気浴や近隣の散歩、隣接する天神さんに朝夕お参りされる等日常的に外に出る機会を持っている。又、季節に応じた花見(桜・アジサイ・はす・しょうぶ・紅葉等)やおひな様見物、地域行事への参加や着物の展示会等職員の機動力を発揮し、自宅訪問や家族の協力での帰省等希望に応じた個別支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて持って頂いており外出時に自分で好きな物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状など本人直筆で書いていただき出来ない利用者にはスタッフが手を添え書いており職員も一筆添えている。電話には出ていただき家族の声に触れていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり利用者手作りの季節の壁飾りなどで季節感を出している。窓の開放で空気を入れ換えたり空調で温度調節し快適に過ごしていただけるようにしている。	玄関に飾られた季節の花や入居者作の貼り絵は入居者の自信の回復に繋げ、ホームリビングからは季節の移ろいを眺める事が出来る。入居者同士の相性を考慮したテーブル配置や、壁面には行事写真やぬり絵の作品等を掲示し、対面式の台所も見守りしやすい造りとなっている。自然豊かな環境の中、空気清浄機や温湿度管理で快適に過ごす環境が整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファの位置に配慮している。カウンターやキッチン内も活用し安心できる居場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物やアルバムなど自宅から持ち込みをして頂いたり好きな植木鉢や花を持ち込まれたり居心地よく過ごして頂けるようにしている。	入居時に馴染みの品物の持ち込みの必要性を説明し、タンスや仏壇・テレビ等が持ち込まれ、入居者作品のタペストリーを飾ったり、植木鉢の花を育てる等自分の住処としての居室等が見られ、本人に合わせベッドの配置や頭の向き、衣類の整理に職員が関わる等家族や職員と一緒に部屋作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場など分かるように表示している。居室内でのベッドの配置なども安全面から考慮している。		